

2021年

電気通信大学同窓会賞

電気通信大学同窓会賞とは

電気通信大学は現在までに多数の卒業生を送り出しています。世界の各方面で活躍している卒業生のうち、科学技術の研究業績ならびに社会貢献が特に顕著な方に、電気通信大学同窓会「一般社団法人目黒会」が「電気通信大学同窓会賞」を授与してその功績を称え、同窓生の方々にも広く認めていただくことにしているものです。1995年からこれまでに33人の方々を受賞されています。今年は1名の方が受賞されました。

宮崎 敏明 氏



経歴

- 1981年 電気通信大学 電気通信学部 応用電子工学科 卒業
- 1983年 電気通信大学大学院 電気通信学研究科 応用電子工学専攻 修了(修士)
- 1983年 日本電信電話公社(現NTT) 電気通信研究所 研究員
- 1994年 工学博士(東京工業大学)
- 2003年 東京農工大学非常勤講師(兼務)(~2007年)
- 2004年 新潟大学大学院工学研究科客員教授(兼務)(~2005年)
- 2005年 会津大学教授
- 2008年 会津大学大学院コンピュータ理工学研究科コンピュータ・情報システム学専攻長
- 2013年 会津大学先端情報科学研究センター(CAIST) センター長
- 2014年 会津大学理事(教育・学務担当) 兼コンピュータ理工学部長
- 2020年 会津大学理事長兼学長

宮崎敏明(みやざき としあき)氏は、NTTの研究所において、ハードウェア記述言語から論理回路を自動合成する論理合成技術が発展途上であった1980年代において、純粋なソフトウェア記述からその動作を実行する専用ハードウェア回路を自動合成する高位ハードウェア合成技術の研究に取り組み、世界的にも早期にその成果を学術論文として発表しました。1990年代に入り、高速通信回路に特化したオリジナルのFPGA(Field Programmable Gate Array: 論理ハードウェア回路を自由に実現できるLSI)を独自開発し、さらにそれをキーデバイスとしたプログラマブル通信装置を実現しました。

大学に転じた後は、無線センサネットワークの研究を開始し、ダイハード・センサネットワークと名付けた自己組織化センサネットワークの概念を提案し、その実装を行いました。一部のセンサノードが故障しても、それをシステムが認識してネットワークシステムから自動で切り離すだけでなく、各センサノードから収集されるデータをサーバに送るマルチホップ転送ルートも動的かつ自動で切り替えるため、メンテナンスフリーで長時間動作が可能となっています。

また、長年の各種国内外の学会の委員活動の功績が認められ、IEEE、電子情報通信学会、情報処理学会の各学会シニア会員であり、日本工学会アカデミーの会員でもあります。